

科目ナンバリング	科目名	教員名
	デジタル・ネットワークの基礎（事例から学ぶ企業のDX戦略）	捧剛／外部講師

開講詳細			
開講キャンパス	開講時期	曜日時限	単位数
渋谷	2025年度集中、2026年度集中	集中講義	2単位

講義授業	
授業の実施形態	対面型授業
授業のテーマ	<p>国家戦略である地方創生2.0等の主たる手段となるデジタルトランスフォーメーション（以下、DX）をマーケット（社会）で推進できる人材創出のための基礎知識とその事例について学修・理解していただけるカリキュラムとしています。受講生のDXに触れるきっかけと今後のDX関連学修についての継続の動機付けとなる授業展開を心掛けていきます。</p> <p>※地方創生2.0とは（内閣府） https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/chihousousei2_0/index.html</p>
授業の内容	<p>本授業は原則、対面授業によって行います。</p> <p>◆毎回、事前課題を設定し、授業によってその課題内容の理解を深め、当該授業終盤に理解度小テストを複数回行い、その結果を成績判定に反映させます。</p> <p>◆授業終了後に、複数回実施した小テストから抜粋した設問を用いたまとめテストを行い、成績判定に反映させます。</p> <p>【主な内容と目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DXに関わる基礎的な社会背景と国家戦略である地方創生2.0等の国家戦略の概要を理解し、DXがどのように社会と関わっているのか、自己の生活との関係性に気づき、興味関心を持ってもらう。 ・DXマネジメントの基礎的考え方を修得してもらう。 ・DXへの興味関心の延長線上にあるDX人材へのパスポートと言える関連資格（DXアドバイザー、GDXアドバイザー資格検定）の説明等を行い、受験促進に繋げていく。
到達目標	<p>① 人口問題と地方創生2.0について説明できる。</p> <p>② 企業におけるDX・グリーントランスフォーメーション（以下、GX）およびESGの取り組みについて説明できる。</p> <p>③ 事例を活用した企業戦略策定について説明できる。</p> <p>④ DXアドバイザー検定に向けて必要なデジタル・IT・DXの基本知識を修得できる。</p> <p>本講義受講学生には、マーケットで現在最も必要とされている「DX人材」になれるよう、必須のデジタル・IT・DXの基本知識の習得を目指し、積極的にDXアドバイザー資格への挑戦をしてほしいと考えています。</p>

授業計画	
第1回	<p>「DXへと繋がる日本の現状」：（総務省データに見る)人口問題に集約されるこれからの日本が抱える課題</p> <p>【事前学習 60分】 ⇒日本の人口推移に関する政府の統計データを確認しておく。</p> <p>【事後学習 60分】 ⇒自分の出身県、出身市区町村の2045年の人口推計値を確認し、今後の変化を考察し、講義後のアンケートへ記載。</p>
第2回	<p>「日本の国家戦略としてのDX」：日本の課題に対する国家の取り組み</p> <p>【事前学習 60分】 ⇒内閣府のHPに掲載されている施策を3つ程度確認しておく。</p> <p>【事後学習 60分】 ⇒人口問題に対する国の対策名を3つ調べて、講義後のアンケートへ記載。</p>
第3回	<p>「デジタル化の取り組みの歴史」：e-Japan戦略からデジタルトランスフォーメーション（DX）デジタル田園都市国家構想</p> <p>【事前学習 60分】 ⇒過去に国家戦略である「e-Japan戦略」の内容を確認しておく。</p> <p>【事後学習 60分】 ⇒最新の「Digi田（デジでん）甲子園」優勝作品に対する感想を講義後のアンケートへ記載。</p>

第4回	<p>「国内企業のDX化の現実」： 統計値に見る企業規模別の現状と傾向とは</p> <p>【事前学習 60分】 ⇒国内企業のDXの取り組みについて、1つ見つけて内容を確認しておく。 【事後学習 60分】 ⇒何故、企業はDXに取り組むのかについての理由を考えて、講義後のアンケートに記載。</p>
第5回	<p>「企業内で行われていること」： 企業内での意思決定はどのように行われるのか？ 社長しか行うことのできない重要な役割とは？</p> <p>【事前学習 60分】 ⇒企業内の一般的ピラミッド組織がどのように構成されているのかを確認しておく。 【事後学習 60分】 ⇒社長（決裁者）に直接会うための手段についての自分の考えを講義後のアンケートへ記載。</p>
第6回	<p>「中小企業、小規模企業の現状と課題」： 中小企業白書に見る、国内中小企業・小規模事業者の現状と課題</p> <p>【事前学習 60分】 ⇒中小企業白書・小規模事業者白書2023を確認し、一読しておく。 【事後学習 60分】 ⇒日本の恒常的な人材不足の打開策について、その理由とともに講義後のアンケートへ記載。</p>
第7回	<p>「成功企業と失敗企業の違い」： 財務面も含めた成功企業と失敗企業の差 その差を埋めるべく「伴走型支援」を行うのがコンサルティングの要</p> <p>【事前学習 60分】 ⇒企業経営における「成功」と「失敗」とはどのような状態をいうのかを調べておく。 【事後学習 60分】 ⇒失敗とみられていた状況から、回復して成功した企業の事例を調べて、講義後のアンケートへ記載。</p>
第8回	<p>「企業のデジタル化、DX化の取り組み」： 大手企業のデジタル化⇒DX化の取り組みと中小企業のDX化の取り組み状況の比較</p> <p>【事前学習 60分】 ⇒中小企業のDX化の取り組みを、1つ見つけて内容を確認しておく。 【事後学習 60分】 ⇒フォーバル社提供「Blue Report 2025」を閲覧し、DXの取り組み状況について、講義後のアンケートへ記載。</p>
第9回	<p>「企業のESG、GX化の取り組み」： 大手企業から始まっているESG対応のためのDX活用、並びにGX化の対応について</p> <p>【事前学習 60分】 ⇒国内企業のESGの取組み状況を理解のために、大手各社が発表している「統合報告書」を1社以上何が書かれているのか見 ておく。 【事後学習 60分】 ⇒中小企業がESGに取り組む必要についての理由を考えて、講義後のアンケートに記載。</p>
第10回	<p>「選ばれる企業となるための『差別化戦略』」： 第三者認証(ISO,ISMS、プライバシーマーク、DXマーク)はなぜ必要なのか？</p> <p>【事前学習 60分】 ⇒企業におけるISO認証を取得するモチベーション（動機付け）は何かについて、調べておく。 【事後学習 60分】 ⇒第三者認証として価値が高く、取得すべき認証を1つ探して、理由とともに講義後のアンケートへ記載</p>
第11回	<p>「選ばれる人物となるための『差別化戦略』」： 第三者認証：資格試験は何が有益？(ITパスポート、DXアドバイザー、個人情報保護士、ビジネス会計検定3級)</p> <p>【事前学習 60分】 ⇒ビジネスで役に立つと思う「第三者認証資格」を3つ探しておく。 【事後学習 60分】 ⇒自己取得を前提に、どの第三者認証資格を目指すか、理由とともに、講義後のアンケートへ記載</p>
第12回	<p>「マーケティング戦略」： 小さな企業が大きな企業に勝つための「マーケティング戦略」</p> <p>【事前学習 60分】 ⇒中小企業・小規模事業者が大企業に比べて有利な点を3つ考えておく。 【事後学習 60分】 ⇒中小企業・小規模事業者が、大企業に勝っている事例を調べて、講義後のアンケートへ記載。</p>

第13回	<p>「WEB, SNS戦略の活用」 ： WEBを使った、効果的なプロモーション戦略</p> <p>【事前学習 60分】 ⇒WEBやSNSを利用して行われている企業のプロモーションを、直近の事例で1つ調べておく</p> <p>【事後学習 60分】 ⇒WEBやSNSを利用した効率的なプロモーション事例とその理由について講義後のアンケートへ記載。</p>
第14回	<p>「フレームワーク」 ： 企業課題の効率的発見方法、解決方法の考え方</p> <p>【事前学習 60分】 ⇒代表的な課題検討/解決のフレームワークを5つ調べておく。</p> <p>【事後学習 60分】 ⇒SWOT分析の中の「THREATS」として、全企業に該当する脅威について、講義後のアンケートへ記載。</p>
第15回	<p>「勝ち組の条件」 ： 同業他社を出し抜く“生き残り戦略”とは（事例紹介と解説）</p> <p>【事前学習 60分】 ⇒企業改革を成し遂げた企業1社の抽出とその事例について整理しておく。</p> <p>【事後学習 120分】 ⇒講義内容修得度について自己採点してアンケートへ記載。まとめテストに向けての学習。</p>
授業計画の説明	<p>事前学修の課題をしっかりとこなし、授業に参加することを強く望みます。 毎講義終盤に行う理解度テストと講義終了後のアンケートにしっかりと答えてください。</p>
授業時間外の学習方法	<p>事前学修の課題をしっかりとこなし、授業に参加することを強く望みます。 課題内容は現代社会に直結した課題や事象を調べることになりますので、日頃より社会問題や時事情報に関心を持って捉えていくことを望みます。</p>
受講に関するアドバイス	<p>毎講義終盤に行う理解度テスト、および終了後のアンケートについては、スマートフォンを利用しますので、インターネットを接続して必ず持参してください。</p>

成績評価の方法・基準		
評価方法	割合	評価基準
授業時試験	70%	未試験の場合はR評価（失格）とします。
平常点	30%	実施した理解度テスト未済およびアンケート未提出の場合はR評価（失格）とします。

注意事項	<p>・ 第1回目より授業を開始し、理解度テスト、アンケートを実施しますので、欠席しないようにしてください。</p> <p>・ 授業は出席していても、理解度テストおよびアンケートが未提出の場合は欠席とみなします。また、5回欠席で失格要件といたします。</p> <p>受講中に希望者は「DXアドバイザー資格」取得のための受験申込/学習を進め、受験準備を行うことが可能。その詳細は希望者に個別で伝達いたします。</p> <p>また、「DXアドバイザー資格」取得者には、GDXアドバイザ-資格取得ためのガイダンス講座へ進むことができます。</p> <p>また、希望者には講義終了後にDXマネジメントを実地学修できる機会を提供。そのための告知を適宜行うものとします。</p>
実務経験に関する記載	<p>講師は（株）フォーバルより派遣され、社業を通じたDXおよびGXに実務経験を活かした社内外研修での講師経験を有し、これまでに培ったDXおよびGXの知識と技術等の経験を、本授業の解説等に活かしていきます。</p>

教科書・参考文献等
教科書
教材はフォーバル社提供の資料を使用します。
参考文献コメント
フォーバル社提供「Blue Report 2025」ほか必要に応じて、別途指示を予定しています。
参考になったウェブページ
講義中に紹介します。